

札幌都心アクセス道路検討会（第5回）

日 時：平成 30 年 7 月 31 日（火）
16 時 30 分～
場 所：TKP 札幌駅カンファレンスセンター
カンファレンスルーム 2B

議事次第

1. 開会

2. 議事

- (1) 計画段階評価（地方小委員会）の状況報告
- (2) 市民との情報共有に係る取組予定
- (3) 札幌駅交流拠点に関する検討状況

3. 閉会

《配布資料》

- 資料1：地方小委員会資料
- 資料2：札幌市提供資料

札幌都心アクセス道路検討会規約

（名称）

第1条 本会は「札幌都心アクセス道路検討会」（以下、「本会」という。）と称する。

（目的）

第2条 北海道新幹線札幌延伸等を踏まえ、札幌都心部と高速道路とのアクセス強化を図るため、関係機関の連携のもと、創成川通の課題解決方策について検討を行う。

（組織）

第3条 本会の構成員は、次のとおりとする。また、必要に応じて、追加することができる。

札幌市都市計画担当局長

北海道建設部長

北海道開発局建設部長

（庶務）

第4条 本会の庶務は、関係機関の協力を得て、北海道開発局において処理する。

（その他）

第5条 本規約に定めるもののほか、必要な事項は会議に諮って決める。

（附則）

この規約は、平成28年12月19日から施行する。

社会资本整備審議会 道路分科会

第17回北海道地方小委員会

議事次第

日 時：平成30年7月31日（火） 10時00分～12時00分

場 所：TKP札幌駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム2B
(札幌市北区北7条西2丁目9)

1. 開会

2. 議題

計画段階評価について

- ・一般国道5号 創成川通 第1回目

3. 閉会

社会资本整備審議会 道路分科会

北海道地方小委員会 委員名簿

片石 あつみ 温美 中央大学研究開発機構 准教授（客員）

加藤 ゆきこ 由紀子 北海商科大学 教授

島本 かずあき 和明 日本医療大学 総長

菅井 たかこ 貴子 気象防災キャスター

高橋 きよし 清 北見工業大学 教授

○ 田村 とおる 亨 北海商科大学 教授

永田 まさき 正記 (一社)北海道商工会議所連合会 副会頭

平岡 よしゆき 祥孝 札幌大谷大学 教授

山崎 みきね 幹根 北海道大学大学院 教授

※○：委員長

※敬称略、五十音順

国道5号 創成川通

そうせいがわどおり

第1回 説明資料

<目 次>

1. 検討の流れ
2. 札幌都心アクセス道路検討会におけるとりまとめ
3. 課題（案）と政策目標（案）
4. 構造形式の比較（案）
5. 意見聴取方法

平成30年7月31日

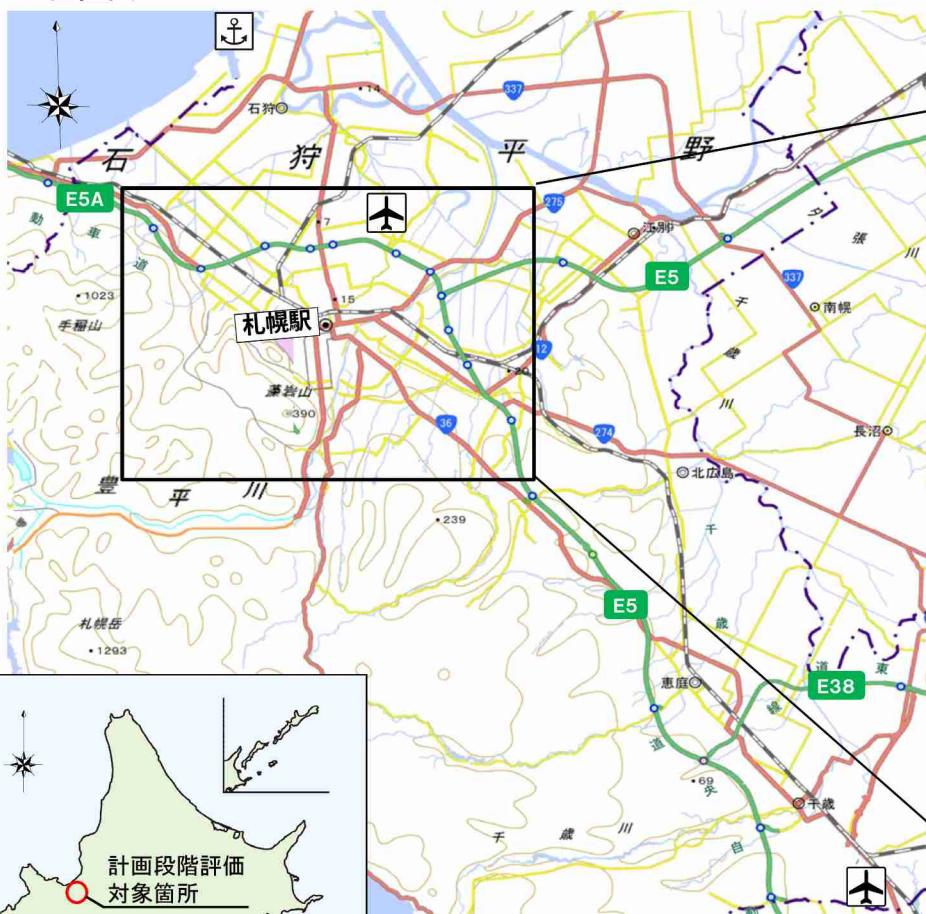
国土交通省 北海道開発局

1 . 検討の流れ

1-1) 評価対象区間

- 一般国道5号は、函館市を起点とし長万部町及び小樽市を経て、札幌市に至る延長約282kmの主要幹線道路であり、道南圏と道央圏を連絡する重要な路線。
- 評価対象区間は札幌市に位置し、札樽自動車道と札幌都心部を結ぶ延長約4kmの区間。

▼位置図

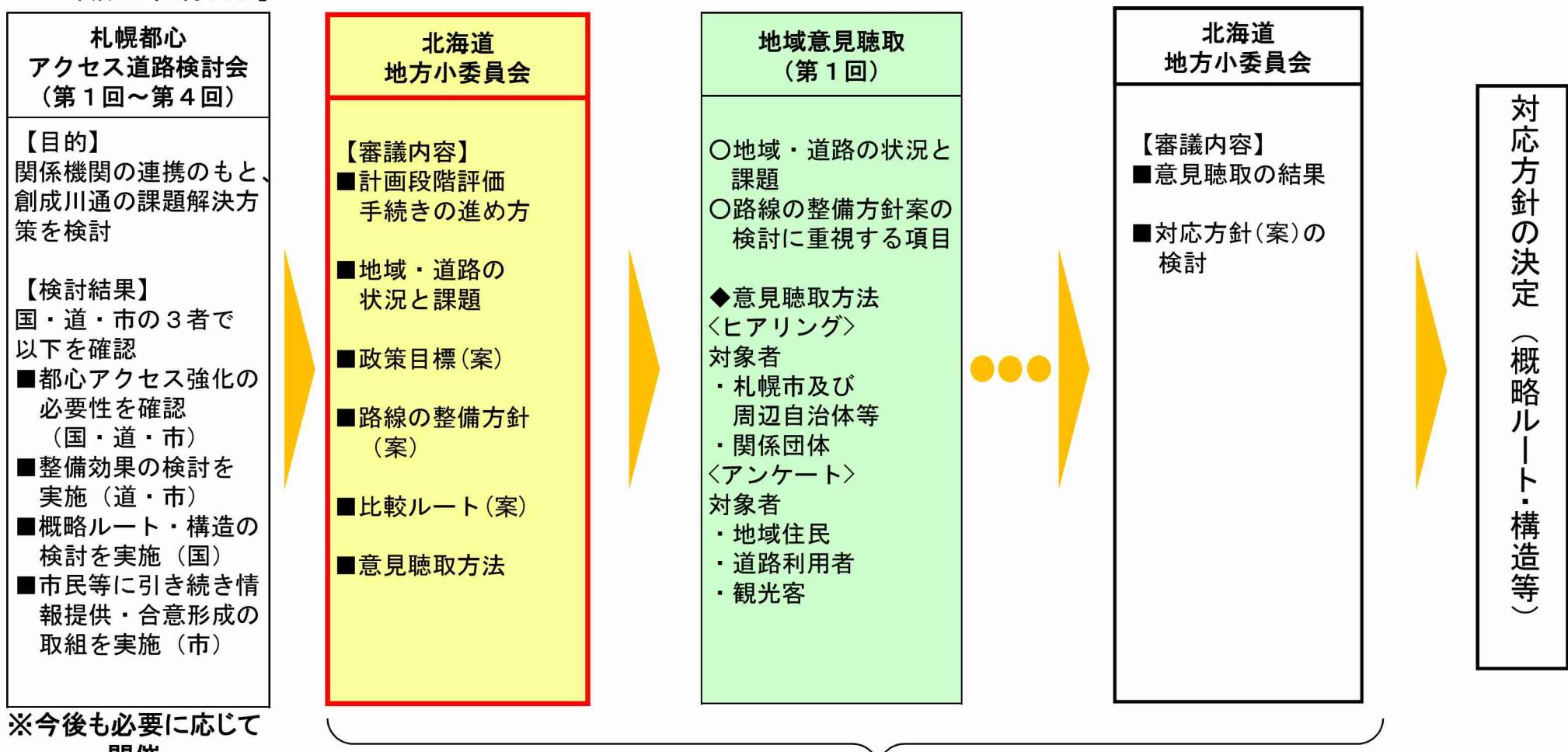


資料 人口:平成27年国勢調査(総務省)
面積:平成29年全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)

1-2) 計画段階評価手続きの進め方

- 札幌都心アクセス道路検討会では、北海道新幹線札幌延伸等を踏まえ、札幌都心部と高速道路とのアクセス強化を図るため、関係機関の連携のもと、創成川通の課題解決方策について検討を実施。
- 計画段階評価手続きでは、地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画〔概略ルート、構造等〕について検討を行う。

【平成28年12月19日
～平成30年3月13日】



北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

2. 札幌都心アクセス道路検討会におけるとりまとめ

2-1) 検討概要

- 札幌都心部と高速道路とのアクセス強化を図り、創成川通の課題解決方策について検討を行うことを目的として、札幌市、北海道、北海道開発局の3者で検討会を設置し、これまで延べ4回開催。
- 都心アクセス道路の必要性、現況と課題、整備効果、対策案等について検討を行い取りまとめを実施。
- 創成川通の課題解決に向け、3者連携のもと検討会を必要に応じて今後も開催予定。

日時	検討事項	内 容
第1回 (H28.12.18)	・広域的な視点での整備効果の整理	【国】北海道総合開発計画における都心アクセス強化の位置づけ・求められる役割 【道】都市交通マスターplanや北海道強靭化計画等における都心アクセス強化の位置づけ 【市】都心アクセス強化の必要性、優位性、現況と課題、期待される効果、整備形態の考え方
第2回 (H29.8.10)	・創成川通の整備と合わせたまちづくりの検討 ・市民等とのさらなる認識共有	【国】札幌市内および創成川通の渋滞状況、交通事故、対策の必要性 【道】広域交通ネットワークの必要性と課題(観光、医療、暮らし、防災) 【市】市民との情報共有に係る取組状況、まちづくりの視点・配慮事項等
第3回 (H29.12.18)	・構造の概略検討 ・市民等とのさらなる認識共有	【国】現道の課題、物理的制約、配慮事項を踏まえた対策案の構造形式、概算費用 【道】広域的な整備効果促進事業(北海道新幹線札幌延伸、追加インターチェンジ設置) 【市】市民との情報共有に係る取り組み状況
第4回 (H30.3.13)	・検討結果のとりまとめ	【国】・【道】・【市】都心アクセス道路の必要性を確認 【国】・【道】・【市】広域的な波及効果について確認 【道】・【市】引き続き整備効果の最大化の検討を実施 【国】今後、整備計画の具体化に向け、国が主体となり概略ルート・構造の検討(計画段階評価)を実施し高速道路(札樽道)等の既存道路との連結等については引き続き検討 【市】市民との合意形成に向けた取組を市が主体となり実施

2-2) 計画の位置付け(国、北海道、札幌市)

国	北海道	札幌市
<p>【北海道総合開発計画(第8期計画) (平成28年3月29日閣議決定)】</p> <p>札幌都市圏は、基礎圏域の一つとして、多くの人々の日常生活を支えているのみならず、<u>行政、経済等の面での北海道全体に及ぶ中枢管理機能や、研究、文化、芸術等の面で他の基礎圏域では提供できない高次都市機能を担っている</u>。北海道内各地域から札幌都市圏への人口流出等により、人口や都市機能の面での札幌一極集中が進んでいるが、一方、札幌都市圏が巨大なダム機能を発揮して、北海道からの人口流出を抑制し、大規模な人口集積がなければ成立し得ない高次都市機能を北海道にもたらしている、との見方もできる。<u>札幌都市圏が担う中枢管理機能・高次都市機能を北海道の発展のために不可欠なものと捉え、札幌都心部の機能強化、北海道全域とつながる広域的な交流・連携機能の確保を通じて、北海道全体を牽引するための環境整備を図ることが重要</u>である。このため、北海道新幹線札幌延伸を見据えつつ、札幌都心部や駅等の交通結節点周辺における交流拠点の整備、にぎわい・憩いの空間の創出、公共交通機関や自転車の利用促進を通じた移動の利便性・快適性・回遊性の向上、無電柱化の推進、自立分散型エネルギー・システムの整備等により、高次な都市機能がコンパクトに集積した魅力ある都市空間の創出を図る。また、<u>札幌都心部と全道各地を結ぶ高規格幹線道路網とのアクセスの強化</u>や骨格道路網の整備、空港・港湾の利用促進等により、観光客の道内周遊促進を含め、広域的な交流・連携を強化する。</p>	<p>【道央都市圏都市交通マスタープラン (H22.3策定)】</p> <p>北海道と札幌市及び周辺の6市3町で構成する「道央都市圏総合都市交通体系調査協議会」で策定した「道央都市圏都市交通マスタープラン」において、<u>骨格道路網として「2高速・3連携・2環状・13放射道路」を位置付け</u>、特に<u>創成川通については、「都心アクセス強化道路軸」として、重点的に機能強化</u>を図ることとしている。</p> <p>「暮らし」、「活力」、「環境」の3つの視点で有効な道路軸の形成を図るために、石狩方面(国道5号)、南区方面(豊平川通)については、自動車交通の円滑性向上を重点的に図る路線に位置づけるとともに、既存の骨格道路網や公共空間の状況を勘案しつつ、あるべき都市圏の将来像で示した連携強化を図る。<u>都市内の緑化空間・水辺空間を創造し、かつ歩行者・自転車・公共交通への空間再構築を図るために、高速道路とのアクセス強化については国道5号を活用すること</u>とし、<u>重点的に機能強化</u>を図る。</p> <p>【北海道強靭化計画(H27.3策定)】</p> <p>災害時における広域交通の分断を回避するため、<u>高規格幹線道路と中心市街地を連結するアクセス道路の整備</u>をはじめ、地域高規格道路や緊急輸送道路、避難路等の整備を計画的に推進する。</p>	<p>【札幌市総合交通計画 (H24.1策定)】</p> <p><u>創成川通を自動車の円滑性向上を重点的に図る「都心アクセス強化道路軸」に位置付け</u>、空港・港湾施設や圏域内における拠点間の連携強化を目指す。</p> <p>【札幌市まちづくり戦略ビジョン (H25.10策定)】</p> <p>人やモノの効率的な流れを支える交通ネットワークの強化を図り、<u>北海道新幹線の札幌延伸効果を道内に波及させるためにも、高速道路などから都心へのアクセス性を高める創成川通の機能強化検討</u>を国とも連携しながら進める。</p> <p>【札幌市強靭化計画 (H28.1策定)】</p> <p>災害時における人命の保護及びライフライン確保の視点から、緊急輸送道路や交通ネットワークを強化するため、<u>高速道路等から都市機能が集積する都心へのアクセス強化に向けて、都心アクセス強化道路軸の検討</u>を国等と連携しながら進める。</p> <p>【第2次都心まちづくり計画 (H28.5策定)】</p> <p><u>創成川通を「つながりの軸」に位置付け、広域からの都心アクセスを支えるとともに、豊かな環境を活かした市民の交流・つながりの創出を図る。</u></p>

2-3) 都心アクセス強化の必要性(札幌市)

- 北海道新幹線札幌延伸や人口減少社会、まちの更新時期の到来など、まさに札幌が大きな転換期を迎える今、将来を見据え、都市の魅力と活力を高めていく取組が必要。
- 札幌都心部と高速道路を結ぶ都心アクセス強化道路軸として、利用面、機能面から創成川通(札幌北IC)が優位。

インバウンド観光客を全道へ

- ・北海道新幹線札幌延伸を迎える今、広域交通ネットワークを担う2次交通の整備に向けた取組を行うことで、新幹線開業効果を高めさらに全道へ波及させることが必要



札幌都心部と高速道路を結ぶ都心アクセス強化道路軸

- ・都心に一番近い札幌北IC
- ・多方面へのアクセスに優れる札幌北IC
- ・都心から一番使われている札幌北IC
- ・道路空間にゆとりがある創成川通
- ・並行道路が多く、周辺への効果も期待できる創成川通



コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現

- ・人口減少を迎える今、札幌都心の高次都市機能により道民の生活を支え、広域的に利用されることにより、その機能を維持向上していくことが必要

社会资本整備によるストック効果創出

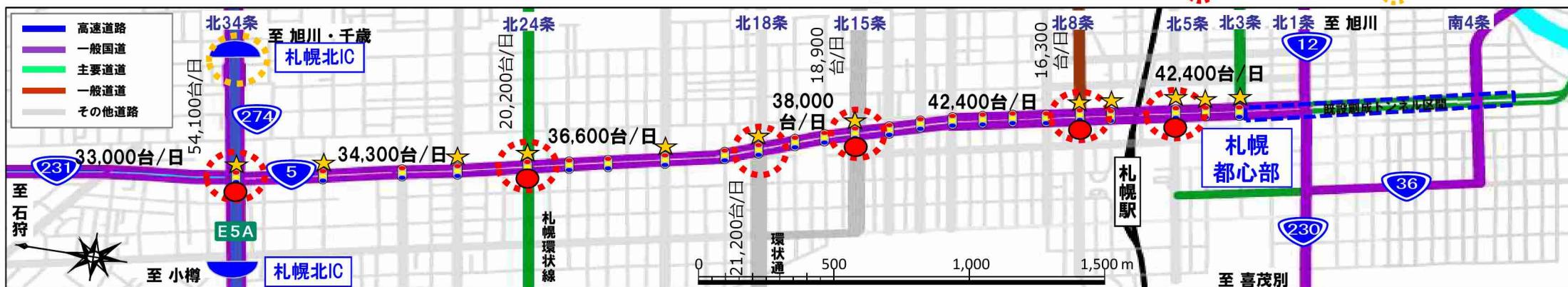
- ・まちの更新時期(建替時期)を迎える今、まちの魅力と活力を高め、次の世代につなげる戦略的な取組が必要

2-4) 交通課題(国)

【創成川通の課題】

- 主要渋滞箇所の交差点が**5箇所**存在し、交差点を中心に**慢性的な渋滞**が発生。
- 信号交差点が**24箇所**連担し、交差点での加減速による速度低下が発生し、特に**冬期は連續的に混雑**が発生。
- 札樽自動車道・札幌北IC(千歳方面)出口で**慢性的**に渋滞が発生し、都心部への円滑な移動が困難。
- 事故危険区間の交差点が**12箇所**存在し、死傷事故率は全道の**約6倍**と非常に高い頻度で事故が発生。

計画段階評価対象区間における ● : 主要渋滞箇所 ★ : 事故危険区間 ○ : 主要交差点 ○○ : IC出口の渋滞



▼混雑・渋滞の発生頻度

	北34条	北24条	北18条	北15条	北8条	北5条
夏期（4-11月）発生日	237	158	137	99	227	183
割合(総日数244日)	97%	65%	56%	41%	93%	75%
冬期（12-3月）発生日	117	94	84	101	100	108
割合(総日数121日)	97%	78%	69%	83%	83%	89%

資料:(公財)日本道路交通情報センターのデータを基に作成
※H28年度データ、「混雑」「渋滞」として公表されている平均走行速度が20km/h以下の発生日を抽出

▼主要渋滞箇所の交差点及び信号連担等による速度低下状況



夏期の北19条交差点付近
(札幌北IC～札幌駅間 夏期13分～22分)



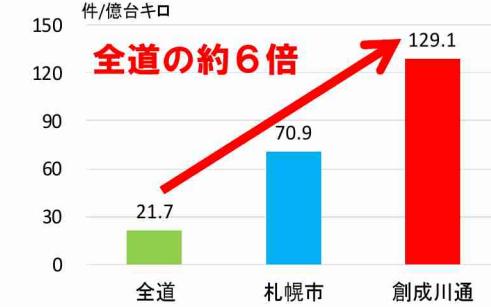
冬期の北19条交差点付近
(札幌北IC～札幌駅間 冬期14分～56分)

▼札幌北IC合流部の渋滞状況



札幌北IC(千歳方面)出口ランプ(赤丸)と
高速本線の渋滞状況(右下)

▼死傷事故率の比較



資料:H25-28 ITARDAデータ

対象区間:北34条交差点～北3条交差点

(資料:第4回札幌都心アクセス道路検討会 資料2より抜粋、一部更新)

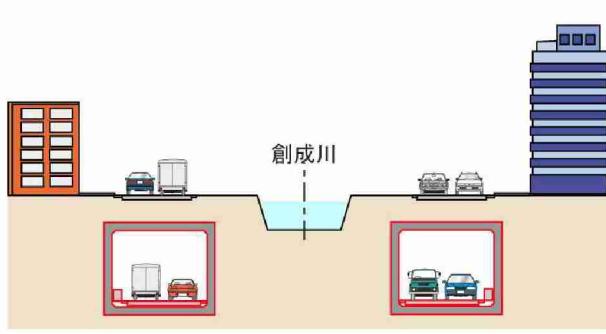
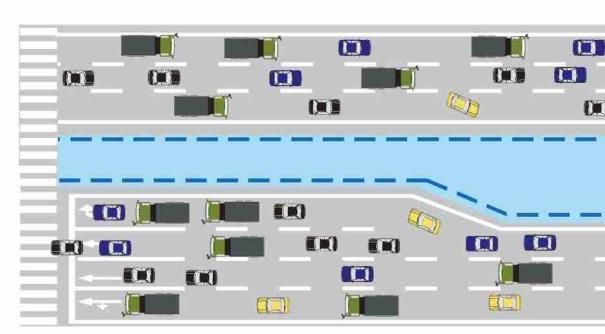
2-5) 整備効果(北海道・札幌市)

- 北海道では、平成25年度に北海道新幹線の札幌延伸による経済波及効果調査を実施。
- 札幌延伸により交流人口が年間約42万人純増すると予測。また、道央圏に到着後、道内各圏域を周遊する交流人口の純増は約29万人。※
- 2030年度末の札幌開業に向け、札幌から全道各地に至る高規格幹線道路ネットワークの早期形成及び札幌駅と高規格幹線道路のアクセス改善が急務。

※ 約29万人は他圏域との重複を含む。調査実施時点の札幌延伸開業想定年次は2035年度



2-6) 概略構造、概算費用(国)

構造形式	別線整備		現道活用 交差点改良
	高架構造	地下構造	
構造のイメージ			
交通面	<ul style="list-style-type: none"> ・速達性、定時性を要する交通、高速利用 交通の機能分担が図られる ・連担する信号交差点を回避することが可能 ・交通が集約されることで、現道及び並行路線の混雑が解消 ・冬期に積雪の影響を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・速達性、定時性を要する交通、高速利用 交通の機能分担が図られる ・連担する信号交差点を回避することが可能 ・交通が集約されることで、現道及び並行路線の混雑が解消 ・冬期に積雪の影響を受けない 	<ul style="list-style-type: none"> ・信号交差点を回避できないため速達性 定時性は現況とほぼ変わらない ・並行路線からの交通転換が見込まれず、 面的な混雑緩和にならない ・冬期に積雪の影響を受ける
環境面	<ul style="list-style-type: none"> ・景観、日照、騒音等の調査が必要 ・高架橋を河川上空に整備するため 創成川の景観に影響がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西市街地の連携が図られる ・地上部の親水緑地空間の整備が可能 ・景観が良く、騒音問題の可能性は低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・車線拡幅を河川上に整備するため 創成川の景観に影響がある
経済面	<ul style="list-style-type: none"> ・地下構造に比べると事業費が安価 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費が高価となる ・河川、地下埋設物の移設が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・安価であり部分的な整備が可能 ・交差点によっては用地買収が必要
概算費用	約140億円～180億円/km当り	約200億円～260億円/km当り	約5億円～10億円/箇所当り

※概算費用は、都市部における他事例を踏まえて試算

2-7) 市民との情報共有に係る取組(札幌市)

○創成川通の検討状況について、パネル展、パンフレット配布、地域住民説明、オープンハウス、ワークショップ等を行い、市民との情報共有を実施。

パネル展の開催・パンフレットの配布

札幌駅前通地下歩行空間や札幌市役所等5会場において、都心アクセス強化(創成川通の機能強化)に関するパネル展を開催

(平成28年10月～11月)

アンケートの実施

都心アクセス強化への期待や現況道路に感じる課題などを把握するためにアンケート調査を実施し、1,004票の回答を回収

(平成28年10月20日～11月18日)

広報活動

検討の進捗に応じ、ホームページへの掲載や広報さっぽろ等により検討状況を周知

(平成28年8月～)

地域住民への情報提供

検討の進捗に応じ、沿線町内会への回覧や沿線連合町内会役員への説明等により検討状況を周知

(平成28年8月～)

オープンハウスの開催

市民に検討状況について情報提供した上で、意見を直接聞き、今後の検討の参考とするため、検討状況に係るパネル展示を行い、来場者から意見を募集するオープンハウスを開催

(平成30年1月28日～2月2日)

ワークショップの開催

市民同士が対話し、都心アクセス強化への理解を深めるとともに、いただいた意見を今後の検討の参考とするため、ワークショップを開催

(平成30年2月10日)

2-8) 札幌都心アクセス道路検討会のとりまとめ

○都心アクセス強化の必要性 [国・道・市]

- ・北海道新幹線札幌延伸や人口減少社会、まちの更新時期の到来など、北海道全体及び札幌市の将来を見据え、都市の魅力と活力を高め、北海道の中心となる札幌都心の高次都市機能を維持向上していくためにも、札幌都心と高速道路を結ぶ幹線道路機能を有する都心アクセス強化軸の必要性を確認

○整備効果 [道・市]

- ・都心と高速道路のアクセスを強化し、広域交通ネットワークの充実を図ることにより、北海道新幹線札幌延伸の開業効果の全道への波及拡大や広域医療・暮らしの利便性向上等の効果が期待されることを確認
- ・今後、交通拠点等から高速道路へのアクセス改善や札幌駅交流拠点を含む沿線のまちづくり計画との整合等、整備効果を最大限に発揮するための取り組みについては、道・市が主体となり実施

○対策案・概算費用 [国]

- ・現道条件や渋滞・冬期等の交通課題の把握を行い、地域のまちづくり計画等に配慮し、交通機能・整備効果・費用等を踏まえた、高架構造・地下構造・交差点改良の対策案・概算費用を提示
- ・今後、整備計画の具体化に向け、国が主体となり概略ルート・構造の検討(計画段階評価)を実施
- ・高速道路(札樽道)等の既存道路との連結等については引き続き検討

○市民等との認識共有 [市]

- ・都心アクセス強化の検討状況について、検討の段階に応じ、市民等に引き続き情報提供を実施
- ・今後、市民との合意形成に向けた取組を市が中心となり実施

3. 課題（案）と政策目標（案）

3-1 地域の課題と道路の課題(案)

地域の課題(案)	道路の課題(案)	テーマ
<ul style="list-style-type: none"> ○北海道新幹線札幌延伸に伴う都心周辺の再開発と観光需要増加が想定され、北海道全体の成長力を牽引するためにも、札幌都心部と高速道路のアクセス強化が必要。 ○商業施設や宿泊施設等が集中する札幌都心と周辺地域とのアクセスに重要な最寄高速IC間では、幹線道路との交差点で連続的に混雑が発生し、円滑な移動に支障。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創成川通は複数の主要幹線道路と交差することから信号交差点密度が高く、主要渋滞箇所に指定されている交差点が5箇所存在。 ○札樽自動車道の札幌北IC(千歳方面)出口で慢性的に渋滞が発生しており、都心部への円滑な移動を阻害。 	都市機能の最大化 (都心アクセス強化)
<ul style="list-style-type: none"> ○企業や商業、宿泊施設等が集積し、再開発が進む札幌都心部においては、今後ますます人流・物流の需要増加が想定。 ○高速道路へのアクセス道路において混雑や事故が多発し、札幌都心部の企業・経済活動に支障。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創成川通は市内や空港・港湾、道内各地から多くの物流が集中するが、死傷事故率は全道平均の約6倍と高く、事故危険区間の交差点が12カ所存在。 ○様々な施設が集積する都心発着交通の定時性・安全性の高い道路が必要。 	企業・経済活動支援 (産業)
<ul style="list-style-type: none"> ○二次医療圏内の市町村から高次医療施設の集積する札幌市への救急搬送は全体の約4割と大きな割合を占める。 ○一次搬送の約3割が高速道路を利用し、うち約6割が中等症以上の速達性が重要な搬送であり、救命率向上のためには高次医療施設への速達性向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創成川通は交通量が多いため信号交差点で車線の閉塞が発生しやすく、救急搬送に支障。 ○幹線道路との交差点を中心とした混雑に加え、冬期は積雪等の影響による速度低下で搬送時間が増加。 	暮らし (医療)

⇒今後のアンケート・ヒアリング、自治体との調整等により、明確化を行う。

3-2) 地域の課題(案)

地域の課題(案)		
都市機能の最大化 (都心アクセス強化)	企業・経済活動支援 (産業)	暮らし (医療)
<ul style="list-style-type: none"> ○北海道新幹線札幌延伸に伴う都心周辺の再開発と観光需要増加が想定され、北海道全体の成長力を牽引するためにも、札幌都心部と高速道路のアクセス強化が必要。 ○商業施設や宿泊施設等が集中する札幌都心と周辺地域とのアクセスに重要な最寄高速IC間では、幹線道路との交差点で連続的に混雑が発生し、円滑な移動に支障。 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業や商業、宿泊施設等が集積し、再開発が進む札幌都心部においては、今後ますます人流・物流の需要増加が想定。 ○高速道路へのアクセス道路において混雑や事故が多発し、札幌都心部の企業・経済活動に支障。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二次医療圏内の市町村から高次医療施設の集積する札幌市への救急搬送は全体の約4割と大きな割合を占める。 ○一次搬送の約3割が高速道路を利用し、うち約6割が中等症以上の速達性が重要な搬送であり、救命率向上のためには高次医療施設への速達性向上が課題。



3-3) 政策目標(案)

■政策目標の設定

○地域の課題や将来像等を踏まえ、3つの政策目標を設定し、これらの目標を達成するための対策案を検討

地域の状況

交通課題・地域課題

関連計画など

札幌都心アクセス道路
検討会 検討状況

- 
1. 都心アクセス強化による都市機能の最大化
 2. 都心立地施設への物流の安定性向上による企業・経済活動支援
 3. 高次医療施設への速達性向上による安心できる暮らしの確保

■対策案の検討

【都心アクセス強化】

- ・北海道新幹線延伸に伴う効果を全道に波及させ、北海道全体の成長力を牽引する札幌都心部へのアクセス性の高い道路
- ・渋滞や混雑の影響が少なく、円滑に移動できる道路

【産業関連】

- ・空港・港湾等の物流拠点や道内各地と札幌都心部とのアクセス性が高く、安定した物流に寄与する道路
- ・札幌都心発着交通の定時性、安全性の高い道路

【医療関連】

- ・周辺市町村から高次医療施設の集積する札幌市への速達性が高い道路
- ・信号交差点での車線の閉塞や冬期の積雪等の影響が少なく、搬送時間の遅れが少ない道路



創成川通について対策案を複数設定し検討

4. 構造形式の比較（案）

4-1) 路線の対策案の考え方

○札幌都心アクセス道路検討会における地域の課題、創成川通に必要な道路機能の検討結果を踏まえ、政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項等を設定し、以下のような3つの対策案を組み合わせ検討。

政策目標

都心アクセス強化による都市機能の最大化

都心立地施設への物流の安定性向上による企業・経済活動支援

高次医療施設への速達性向上による安心できる暮らしの確保

政策目標達成に必要な機能

○新幹線延伸等の効果を全道に波及させ、渋滞等の影響が少ないアクセス性の高い道路

○物流拠点や道内各地からの安定した物流に寄与し、定時性・安全性の高い道路

○周辺市町村から高次医療施設が集積する札幌市への速達性が高く、搬送時間の遅れが少ない道路

配慮すべき事項

・緑地景観への影響

・沿道地域環境への影響

・工事中の影響

・経済性

構造形式	別線整備		現道活用 交差点改良
	高架構造	地下構造	
構造のイメージ			
交通面	<ul style="list-style-type: none"> ・速達性、定時性を要する交通、高速利用 ・連担する信号交差点を回避することが可能 ・交通が集約されることで、現道及び並行路線の混雑が解消 ・冬期に積雪の影響を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・速達性、定時性を要する交通、高速利用 ・連担する信号交差点を回避することが可能 ・交通が集約されることで、現道及び並行路線の混雑が解消 ・冬期に積雪の影響を受けない 	<ul style="list-style-type: none"> ・信号交差点を回避できないため速達性、定時性は現況とほぼ変わらない ・並行路線からの交通転換が見込まれず、面的な混雑緩和にならない ・冬期に積雪の影響を受ける
環境面	<ul style="list-style-type: none"> ・景観、日照、騒音等の調査が必要 ・高架橋を河川上空に整備するため、創成川の景観に影響がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西市街地の連携が図られる ・地上部の親水緑地空間の整備が可能 ・景観が良く、騒音問題の可能性が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・車線拡幅を河川上に整備するため、創成川の景観に影響がある
経済面	<ul style="list-style-type: none"> ・地下構造に比べると事業費が安価 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費が高価となる ・河川、地下埋設物の移設が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・安価であり部分的な整備が可能 ・交差点によっては用地買収が必要
概算費用	約140億円～180億円/km当り	約200億円～260億円/km当り	約5億円～10億円/箇所当り

対策（案）

高架構造・地下構造・交差点改良案の組み合わせを検討

評価項目

・都心部～札幌北IC間の速達性・定時性の確保
・札幌北ICの出口渋滞解消
・新幹線札幌延伸等を見据えた効果の発現

・港湾・空港と札幌都心部との定時性確保
・札幌都心部発着の物流交通とその他交通の分離

・信号交差点回避による速達性の確保
・冬期における定時性の確保

4-2) 路線の検討条件

平面条件

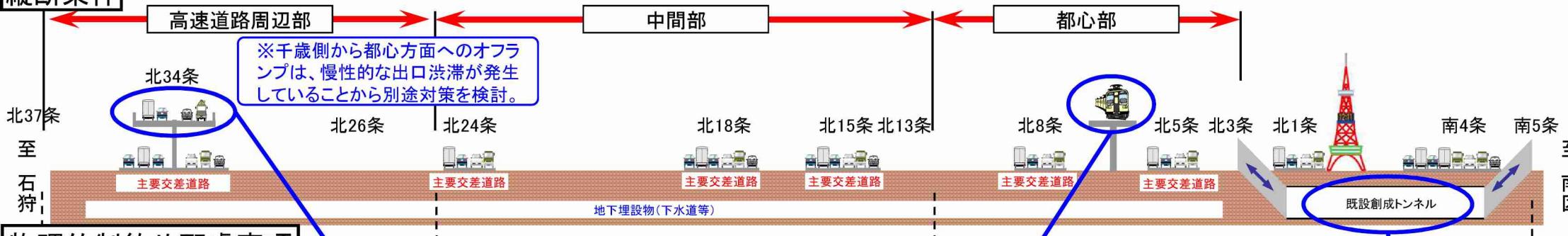
都市計画道路幅W=40m(6車線)

都市計画道路幅W=56m(6車線、8車線)



下図 NTT空間情報株式会社

縦断条件



物理的制約や配慮事項

高速道路高架橋(2階)を回避するため、
地下案、高架案(3階)、現道活用案
で検討。

部分的な別線整備とした場合、主要交差点部に交通が集中し、混雑による周辺への影響が生じるため、別線整備(地下案・高架案)と現道活用の組合せは行わない。

札幌駅とのアクセス確保

既設創成トンネルと円滑に接続するため、地下案で検討。

4-3) 路線の検討条件(高速道路周辺部)

- 札樽自動車道の千歳側から都心方面へのオフランプ（出口）において、慢性的な出口渋滞が発生していることから、既存のオフランプとは別に直接創成川通と接続するダイレクトアクセスランプを整備することを検討。
- ダイレクトアクセスランプの整備では沿線の公共施設、医療施設等の重要施設回避について配慮が必要。

▼札幌北IC周辺の物理的制約等



縦断条件



▼札幌北ICの渋滞発生状況

ランプ方向	交通量	渋滞発生状況
①千歳⇒都心	約6,300台/日	国道合流部を先頭に札樽道本線部まで渋滞が発生。特に平成29年では年間327日間※の出口渋滞が発生
②都心⇒千歳	約6,500台/日	料金所入口で滞留は多少あるが、札樽道本線部に影響はない
③小樽⇒都心	約1,900台/日	滞留は多少あるが、札樽道本線部に影響する渋滞はほぼない
④都心⇒小樽	約1,700台/日	料金所入口で滞留は多少あるが、札樽道本線部に影響はない

交通量: 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査
及び平成28年度版札幌市統計書より算出

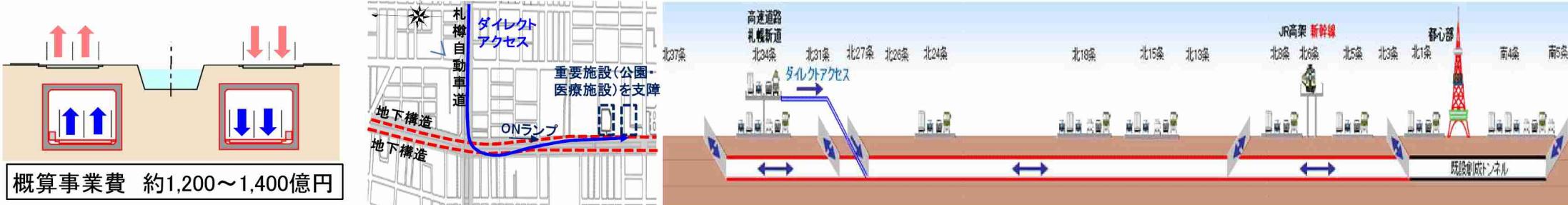
※NEXCO東日本北海道支社調査
平成29年1月～12月

▼札幌北IC(千歳→都心)オフランプと本線の渋滞発生状況

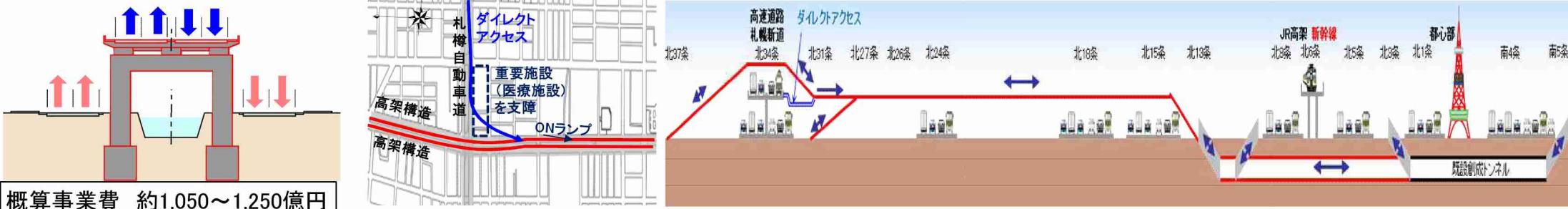


4-4) 構造形式比較図

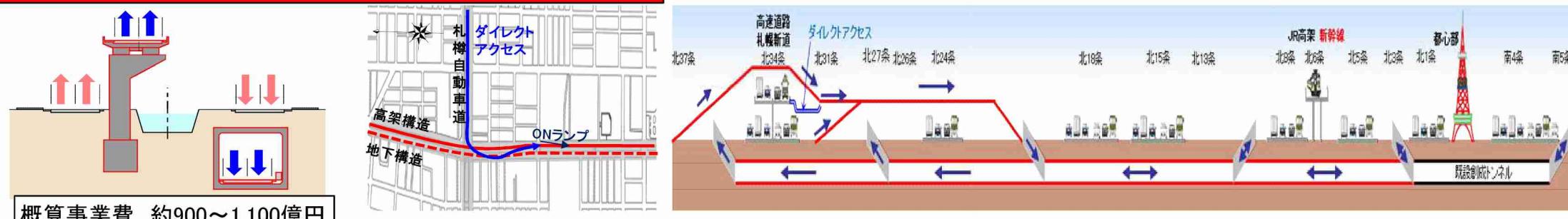
【案①】地下整備案（上下線地下構造）



【案②】一部高架整備案（都心部地下構造）



【案③】上下線構造分離案（高架地下組合せ+都心部地下構造）



【案④】現道活用案（平面交差点改良）



注) 案①、案②、案③の出入口（ランプ）の詳細な位置や構造については、地域意見聴取の結果等を踏まえ、都心アクセス強化、物流拠点や医療拠点等との連絡性、観光交流の促進等に寄与する配置とすることを想定。

4-5) 対策案の比較

構造形式	【案①】地下整備案 (上下線地下構造)	【案②】一部高架整備案 (都心部地下構造)	【案③】上下線構造分離案 (高架地下組合せ+都心部地下構造)	【案④】現道活用案 (平面交差点改良)	
整備イメージ					
区間延長	約5km	約5km	約5km	約4km	
政策目標	都心アクセス強化による都市機能の最大化	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行速度は制限速度と同程度となり、速達性が確保可能 ・地下構造のため冬期の交通への影響を受けず、定時性が確保可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行速度は制限速度と同程度となり、速達性が確保可能 ・冬期の交通への影響を受け旅行速度の低下や所要時間のばらつきが高架構造区间で発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行速度は制限速度と同程度となり、速達性が確保可能 ・地下構造区间では冬期の交通への影響を受けず、定時性が確保可能(冬期交通の影響は一部高架構造区间で限定的に発生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・右折車の滞留による交通阻害のある交差点に関して、河川断面への張り出しにより右折レーンを設置する案
	札幌北ICの出口渋滞解消	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路と創成川通を接続するランプの設置により出口渋滞解消が可能(創成川通へは地下で合流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路と創成川通を接続するランプの設置により出口渋滞解消が可能(創成川通へは高架で合流) 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備により右折車の滞留による交通阻害が解消され、旅行速度がやや改善される 	
	新幹線札幌延伸等を見据えた効果の発現	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設が支障となるため、効果発現に時間を要することが懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設が支障となるため、効果発現に時間を要することが懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設の支障がなく、新幹線等を見据えた効果の発現に期待 	
	都心立地施設への安定性向上による企業・経済活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾・空港と札幌都心部等の連携強化により定時性が向上 ・ただし、トンネル延長が5km以上となり危険物積載車両の通行が制限 	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾・空港と札幌都心部等の連携強化により定時性が向上 ・危険物積載車両の通行制限は生じない 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面交差点であり定時性向上への寄与が小さい ・危険物積載車両の通行制限は生じない 	
	高次医療施設への速達性向上による安心できる暮らしの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・全線で沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他交通とが完全に分離されるため、交通事故低減が期待 	<ul style="list-style-type: none"> ・全線で沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他交通とが完全に分離されるため、交通事故低減が期待 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面交差であり、交差点や沿道からの交通の流入は分離されないため、交通事故の大きな低減は期待できない 	
	信号交差点回避による速達性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・別線整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・別線整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・別線整備により信号交差点(24箇所)は全て残存し、交差点部通過時ににおける速度低下が残存 	
	冬期における定時性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地下構造のため冬期の交通への影響が小さく、定時性が向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・高架構造区间において冬期の交通への影響が残存するが案②より範囲は小さく、定時性が向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期の交通への影響に加え、信号交差点の連続等により、定時性が確保されない 	
	緑地景観への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの区間において親水緑化空間の連続的な確保が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部区間での親水緑化空間の確保にとどまる 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの区間において親水緑化空間の連続的な確保が可能 	
	沿道地域環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設に影響する 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設に影響する 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設に影響しない 	
配慮すべき事項	東西市街地の交通の連携確保	<ul style="list-style-type: none"> ・東西市街地の交通の連携が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部で東西市街地間の交通分断が発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西市街地の交通の連携が確保される 	
	工事中の現道交通への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・全線において開削工法による施工となり現道交通への影響が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下区間では開削工法による施工となり現道交通への影響が大きいが、高架区間では地下区間より影響が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川への張り出し擁壁を整備する際に一部区間で車線を規制するが、現道交通への影響は小さい 	
	経済性	<ul style="list-style-type: none"> ・経済性に最も劣る 	<ul style="list-style-type: none"> ・案③、案④に比較して経済性に劣る 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済性に最も優れる 	
		約1,200～1,400億円	約1,050億円～1,250億円	約900～1,100億円	
22					

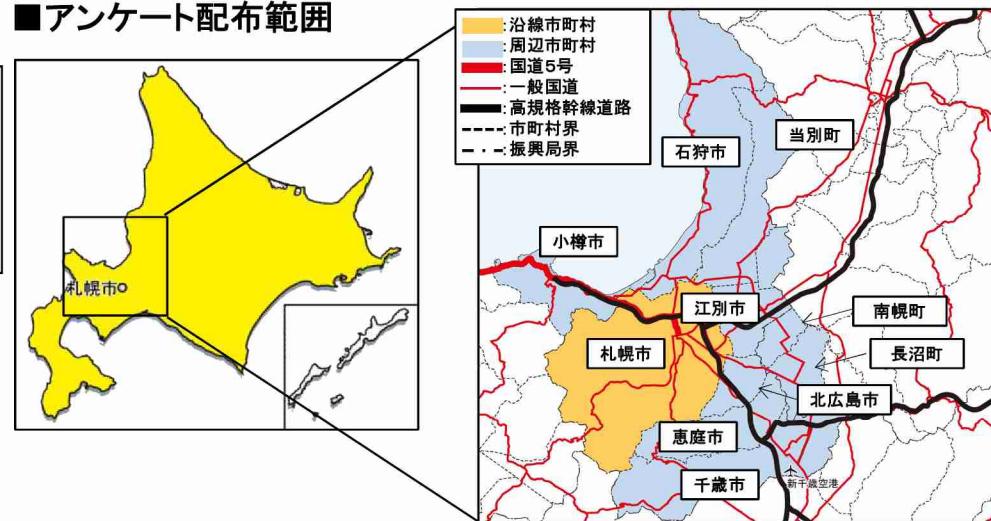
5. 意見聽取方法

5-1) 意見聴取方法

■意見聴取の基本方針

○「地域の課題」、「国道5号創成川通に必要な道路の機能」、「対策案(構造)」、「配慮すべき事項」に対し意見を伺う。

■アンケート配布範囲



■意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法

【自治体及び関係団体】		インタビュー形式でのヒアリング
札幌市及び周辺自治体	北海道、札幌市、小樽市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、南幌町、長沼町	
各団体	道商連、商工会議所(6箇所:札幌、小樽、江別、千歳、恵庭、石狩)、商工会(4箇所:石狩北、北広島、長沼町、当別町)、農業協同組合(4組合:札幌市、道央、石狩市、北石狩)、漁業協同組合(2組合:石狩湾、小樽市)、北海道トラック協会、札幌地区トラック協会、各運送事業者、北海道バス協会、各バス事業者(3社:北海道中央バス、JR北海道バス、じょうてつバス)、レンタカー協会、まちづくり会社(札幌大通、札幌駅前通)、北海道観光振興機構、旅行会社(3社:JTB北海道、近畿日本ツーリスト、日本旅行)、他北海道本社の旅行会社、消防本部・消防組合(8箇所:札幌市、小樽市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩北部地区消防事務組合、南空知消防組合)、病院(3施設:北大、札幌医大、市立札幌)	インタビュー形式でのヒアリング
【地域住民及び道路利用者】		郵送配布(配布予定数) 各自治体で統計上必要な標本数を算出し無作為抽出で配布
地域住民	沿線地域:札幌市(約5,300) 周辺地域:小樽市(約5,200)、江別市(約5,200)、千歳市(約5,200)、恵庭市(約5,200)、北広島市(約5,100)、石狩市(約5,100)、当別町(約4,700)、南幌町(約3,400=全戸配布)、長沼町(約4,400)	
道路利用者	10自治体の役場、道の駅(厚田、とうべつ) 広域的な利用者	
観光客	札幌駅、新千歳空港、丘珠空港、観光施設(北海道庁旧本庁舎、大通公園)、道の駅(厚田、とうべつ)等	常設の留置きアンケート調査 Webアンケート調査 面談アンケート調査

5-2) 意見聴取方法

■札幌市においてとりまとめられた調査項目と活用する内容

	意見聴取の項目(実施済)	活用する内容
アンケート (H28.10/20～11/18)	都心アクセス道路の現道の課題と道路整備をする上での重視する項目、期待する効果等を意見聴取	都心アクセス道路の整備の必要性と概略構造比較案選定の際の評価指標の検証、今後の整備効果の検討における分析の視点として活用する。
オープンハウス (H30.1/28,29,31,2/2) ワークショップ (H30.2/10)	概略構造検討案の選定時に重視する項目等を意見聴取	整備区間・道路構造(比較案)を展示により説明し選定時に重視する項目等を把握するとともに、アンケート調査項目の妥当性を聴取。

■ヒアリングの調査項目と活用方針

	意見聴取の項目	把握する意見
共通	行政や業界への意見聴取	課題、政策目標、道路整備の必要性に関し、行政や業界への意見聴取を行う。 行政又は業界との認識の整合性の確認をする。

■アンケートの調査項目と活用方針

アンケートの調査項目	アンケート結果の活用
地域の課題	道央都市圏の将来を見据え、改善すべき地域の課題について、地域住民等の考えを把握する。
必要な道路の機能	創成川通に必要な道路の機能を把握する。
重視すべき視点	対策案(構造)の比較・検討に際し、地域住民等が重視する視点を把握する。
配慮すべき事項	対策案(構造)の比較・検討に際し、配慮すべき事項を把握する。
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分野で整理し、分析する。

5-3) 第1回アンケート調査(案)

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

①調査概要

→ 本調査の趣旨・調査対象箇所について説明

一般国道5号 創成川通における 道路計画に関する第1回アンケート調査

一般国道5号は、函館市を起点とし長万部町及び小樽市を経て、札幌市に至る延長約282kmの主要幹線道路であり、道南圏と道央圏を連絡する重要な路線です。そのうち評価対象区間である創成川通は、札幌市に位置し、札樽自動車道と札幌都心部を結ぶ延長約4kmの区間となります。

本アンケートは、創成川通の計画検討にあたり、計画づくりの初期段階から地域の皆さまへ情報提供を行うとともに、広くご意見をお聞きし、それを計画に反映していくための取組として実施するものです。

今回のアンケートでは、地域の皆様が日々感じられている地域の課題や、必要な道路機能等についてお伺いした上で、対策案（構造）の選定にあたり、重視すべき点や配慮すべき点についてお伺いします。アンケートにご協力いただけますよう、よろしくお願ひいたします。



②道央都市圏の課題

→ 地域の課題について説明

道央都市圏の課題

一般国道5号は、函館市を起点とし長万部町及び小樽市を経て、札幌市に至る延長約282kmの主要幹線道路であり、道南圏と道央圏を連絡する重要な路線です。その中で創成川通は、高次都市機能が集積する札幌都心部と、高速道路の最寄のインターチェンジである札幌北ICを結び、高規格幹線道路ネットワークと一緒に北海道全域へつながる重要なルートです。

このような中、現在の地域や道路の状況から、地域の将来を見据えた改善すべき課題（道路に関して）は、以下のように考えられます。

地域の課題(案)	企業・経済活動支援（産業）	暮らし（医療）
都市機能の最大化（都心アクセス強化）	企業・経済活動支援（産業）	暮らし（医療）
○北海道新幹線札幌延伸に伴う都心周辺の再開発と観光需要増加が想定され、北海道全体の成長力を牽引するためにも、札幌都心部と高速道路のアクセス強化が必要。 ○商業施設や宿泊施設等が集中する札幌都心と周辺地域とのアクセスに重要な最寄高速IC間では、幹線道路との交差点で連続的に混雑が発生し、円滑な移動に支障。	○企業や商業、宿泊施設等が集積し、再開発が進む札幌都心部においては、今後ますます人流・物流の需要増加が想定。 ○高速道路へのアクセス道路において混雑や事故が多発し、札幌都心部の企業・経済活動に支障。	○二次医療圏内の市町村から高次医療施設の集積する札幌市への救急搬送は全体の約4割と大きな割合を占める。 ○一次搬送の約3割が高速道路を利用し、うち約6割が中等症以上の速達性が重要な搬送であり、救命率向上のためには高次医療施設への速達性向上が課題。



5-4) 第1回アンケート調査(案)

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

③課題解決のための対策案

→ 対象地域における課題解決のための対策案の提示

課題解決のための対策案

○札幌都心アクセス道路検討会における地域の課題、創成川通に必要な道路機能の検討結果を踏まえ、政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項等を設定し、以下のような3つの対策案を組み合わせ検討しました。

政策目標	都心アクセス強化による都市機能の最大化	都心立地施設への物流の安定性向上による企業・経済活動支援	高次医療施設への連通性向上による安心できる暮らしの確保
政策目標達成に必要な機能	○新幹線延伸等の効果を全道に波及させ、渋滞等の影響が少ないアクセス性の高い道路	○物流拠点や道内各地からの安定した物流に寄与し、定時性・安全性の高い道路	○周辺市町村から高次医療施設が集積する札幌市への連通性が高く、搬送時間の遅れが少ない道路
配慮すべき事項	・緑地景観への影響	・沿道地域環境への影響	・工事中の影響
構造形式	別線整備	現道活用	交差点改良
構造のイメージ			
交通面	<ul style="list-style-type: none"> ・速達性・定時性を要する交通、高速利用交通の機能分担が図られる ・連接する信号交差点を回避することが可能 ・交渉が集約されることで、現道及び並行路線の混雑が解消 ・冬期に積雪の影響を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・速達性・定時性を要する交通、高速利用交通の機能分担が図られる ・連接する信号交差点を回避することが可能 ・並行路線からの交通転換が見込まれず、面倒な混雑緩和にならない ・冬期に積雪の影響を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・信号交差点を回避できないため速達性、定時性は現況とほぼ変わらない ・並行路線からの交通転換が見込まれず、面倒な混雑緩和にならない ・冬期に積雪の影響を受ける
環境面	<ul style="list-style-type: none"> ・景観、日照、騒音等の調査が必要 ・高架橋を河川上空に整備するため、創成川の景観に影響がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西市街地の連携が図られる ・地上部の親水緑地空間の整備が可能 ・景観が良く、騒音問題の可能性が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・車線拡幅を河川上に整備するため、創成川の景観に影響がある
経済面	<ul style="list-style-type: none"> ・地下構造に比べると事業費が安価 ・河川、地下埋設物の移設が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費が高価となる ・交差点によっては用地買収が必要 	
概算費用	約140億円～180億円/km当り	約200億円～260億円/km当り	約5億円～10億円/km当り
対策（案）	高架構造・地下構造・交差点改良案の組み合わせを検討		
評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部～札幌北IC間の速達性・定時性の確保 ・札幌北ICの出口渋滞解消 ・札幌都心部発着の物流交通とその他の交通の分離 ・信号交差点回避による速達性の確保 ・冬期における定時性の確保 		

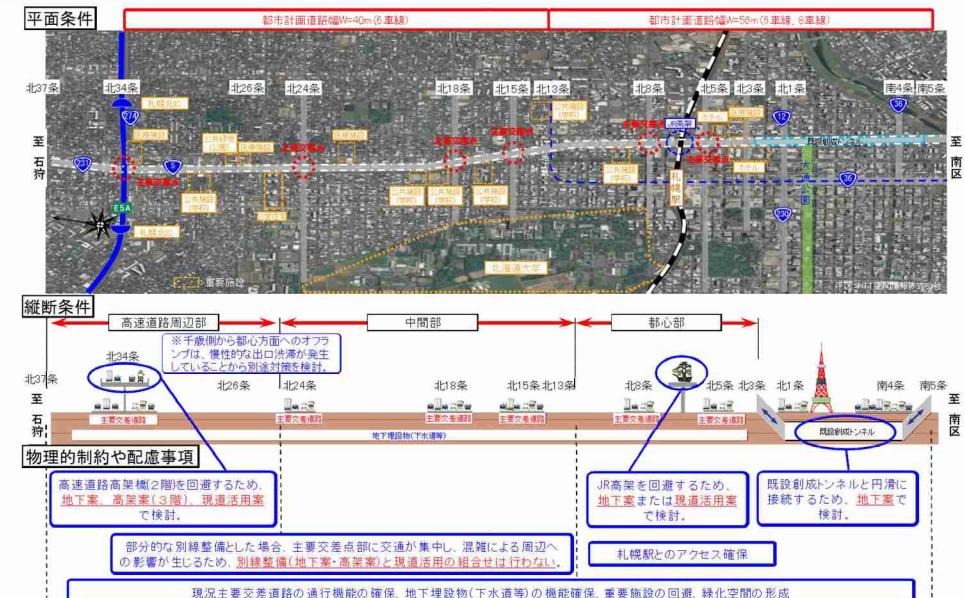
④対策案のコントロールポイント(物理的制約等)

→ 対策案の検討にあたってのコントロールポイントを提示

対策案のコントロールポイント

○各対策案検討のコントロールポイントとしては、札幌都心アクセス道路検討会の検討結果を踏襲し、各区間において物理的制約等に配慮します。

配慮するコントロールポイント



5-5) 第1回アンケート調査(案)

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

⑤対策案の比較図表

→ 各対策案の内容・効果・影響の比較結果の提示

対策案の概要		対策案の比較表			
	構造形式	【案①】地下整備案 (上下線地下構造)	【案②】一部高架整備案 (都心部地下構造)	【案③】上下線構造分離案 (高架地下組合せ+都心部地下構造)	【案④】現道活用案 (平面交差点改良)
○札幌都心アクセス道路検討会結果の3つの構造形式の組み合わせによる対策案を検討するという方針に則り、高速道路とのアクセスを含めた4つの対策案を選定しました。	整備イメージ				
【案①】地下整備案（上下線地下構造）	区間延長	約5km	約5km	約5km	約5km
【案②】一部高架整備案（都心部地下構造）	都心アクセス強化による都市機能の最大化	<ul style="list-style-type: none"> ・創成トンネルとの連続性及び札幌市まちづくり計画を考慮しつつ、各期積雪時の影響を受けない地下構造で整備する案 	<ul style="list-style-type: none"> ・創成トンネルとの連続性から都心部について地下構造とし、その他区間は高架構造で整備する案 	<ul style="list-style-type: none"> ・案①と案②を組み合せた案。ダイレクトアクセスランプは上りを地下構造としたことにより大規模な用地取得を回避 	<ul style="list-style-type: none"> ・右折車の滞留による交通阻害のある交差点にに関して、河川断面への張り出しにより右折レーンを設置する案
【案③】上下線構造分離案（高架地下組合せ+都心部地下構造）	政策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行速度は制限速度と同程度となり、速達性が確保可能 ・冬期の交通への影響を受け旅行速度の低下や所要時間のはらつきが高架構造区間に集中 ・高速道路と創成川橋を接続するランプの設置により出口渋滞解消が可能（創成川橋には下り合流） ・重要施設が支障となるため、効果実現に時間を要することが懸念 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行速度は制限速度と同程度となり、速達性が確保可能 ・冬期の交通への影響を受け旅行速度の低下や所要時間のはらつきが高架構造区間に集中 ・高速道路と創成川橋を接続するランプの設置により出口渋滞解消が可能（創成川橋には高架で合流） ・重要施設が支障なく、新幹線等を見据えた効果の発現に期待 	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾・空港と札幌都心部等の連携強化により定期性が向上 ・札幌都心部での定時性確保 ・札幌都心部発着の物流交通とその他の交通の分離 ・高次医療施設への連携性向上による安心できる暮らしの確保 ・緑地景観への影響 ・重要施設への影響 ・工事中の現道交通への影響 ・経済性 	<ul style="list-style-type: none"> ・港湾・空港と札幌都心部等の連携強化により定期性が向上 ・札幌都心部での定時性確保 ・札幌都心部発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・高架構造区間で冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間で冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される
【案④】現道活用案（平面交差点改良）	問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・南北の出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・全線で沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北の出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・全線で沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北の出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・全線で沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北の出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・全線で沿道からの出入りが制限され、都心発着の物流交通とその他の交通が完全に分離されるため、交通事故低減が期待 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、効果は限定的 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・別途整備により信号交差点(24箇所)を回避し、交差点部通過時ににおける速度低下がなくなることで、速達性が向上 ・高架構造区間に於ける冬期の交通への影響が残存するため、案④のより範囲が小さく、定期性が向上 ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される ・東西市街地の交通の連携が確保される
注) 案③、案④の出入口（ランプ）の詳細な位置や構造については、地図意見聴取の結果等を踏まえ、都心アクセス強化、物流拠点や医療拠点等との連絡性、観光交流の促進等に考慮する配置とすることを想定。	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・案③、案④は、案①の出入口（ランプ）の詳細な位置や構造については、地図意見聴取の結果等を踏まえ、都心アクセス強化、物流拠点や医療拠点等との連絡性、観光交流の促進等に考慮する配置とすることを想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案③、案④は、案①の出入口（ランプ）の詳細な位置や構造については、地図意見聴取の結果等を踏まえ、都心アクセス強化、物流拠点や医療拠点等との連絡性、観光交流の促進等に考慮する配置とすることを想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案③、案④は、案①の出入口（ランプ）の詳細な位置や構造については、地図意見聴取の結果等を踏まえ、都心アクセス強化、物流拠点や医療拠点等との連絡性、観光交流の促進等に考慮する配置とすることを想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案③、案④は、案①の出入口（ランプ）の詳細な位置や構造については、地図意見聴取の結果等を踏まえ、都心アクセス強化、物流拠点や医療拠点等との連絡性、観光交流の促進等に考慮する配置とすることを想定。

5-6) 第1回アンケート調査(案)

■質問内容・解答欄

回答は返信用ハガキに記入し、平成●年●月●日までに郵便ポストに投函してください。

質問1 道央都市圏の将来を見据えた地域の課題についてどう思いますか？

次のA～Dの項目それについて、「そう思う」～「そう思わない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。

- A 北海道新幹線延伸に伴う都心周辺の再開発や観光需要増加等の効果を全道に波及させるためには、札幌市と周辺都市を結ぶ交通ネットワークの強化が必要である
- B 札幌都心と最寄高速ICの距離の遠さや混雑が札幌と周辺都市との移動の妨げになっている
- C 地域産業発展のためにも、空港・港湾等の物流拠点や道内各地と、企業や宿泊施設等の集積する札幌都心との間の交通事故防止や物流輸送時間の定時性確保が必要である
- D 周辺市町村から札幌市に集積する高次医療機関への搬送に時間がかかるため、早く確実に到着することが必要である

そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う 思わない
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5

回答は返信はがきに記入願います

質問2 国道5号創成川通に必要な道路はどのような道路だと思いますか？

次のA～Dの項目それについて、「そう思う」～「そう思わない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。

- A 北海道全体の成長力を牽引する札幌都心部へのアクセス性の高い道路
- B 渋滞や混雑の影響が少なく円滑に移動できる道路
- C 事故が少なく安全に輸送や移動ができる道路
- D 高次医療機関が集積する札幌市への搬送時間を短縮し、安定走行が可能な道路

そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わない	そ う 思わない
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
1	2	3	4	5

回答は返信はがきに記入願います

5-7) 第1回アンケート調査(案)

■質問内容・解答欄

質問3 対策案（構造）の比較・検討に際し、どの項目を重視すべきだと思いますか？

次のA～Eの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視すべきではない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。		特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視すべきではない	重視すべきではない
A 都心部～札幌北IC間の所要時間		1	2	3	4	5
B 札幌北インターチェンジの渋滞解消		1	2	3	4	5
C 物流交通の港湾空港と札幌都心部との定時性		回答は返信はがきに記入願います				
D 札幌都心部の高次医療施設への速達性		1	2	3	4	5
E 冬期における定時性		1	2	3	4	5

質問4 対策案（構造）の比較・検討に際し、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮しなくてもよい」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。		特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮しなくてもよい	配慮しなくてもよい
A 緑化空間が形成されること		1	2	3	4	5
B 沿道の重要施設や家屋等への影響が小さいこと		1	2	3	4	5
C 工事中の交通規制による影響が小さいこと		1	2	3	4	5
D 建設に要する費用が安いこと		1	2	3	4	5

質問5 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

回答は返信はがきに記入願います

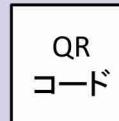
5-8) 第1回アンケート調査(案)

- 回答は同封の郵便はがきにご記入ください。
- 回答用の郵便はがきは、切手を貼らずに最寄りの郵便ポストへ投函してください。
なお、投函は平成30年●月●日（●）までにお願いします。
- インターネットによる回答も可能になっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。

一般国道5号 創成川通 道路計画に関する意見募集 Web回答用ページ

URL <https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/●●●●.html>

※札幌開発建設部ホームページからもアクセス可能です。



アンケートの記入例

郵便はがき

0 6 0 8 5 0 6

料金受取人払郵便

札幌局認
承

32

差出有効期間
平成31年3月
31日まで
(切手不要)

北海道札幌市中央区北2条西19丁目

札幌開発建設部 都市圏道路計画課

一般国道5号創成川通

道路計画に関するアンケート係 行

■あなた自身のことについて（記入または該当する番号に○印）

住所 〒000-0000 北海道 札幌 市・都 中央 区・町・村

性別 ①男性 ②女性 年齢: 50 歳代

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業
⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業
⑫無職 ⑬その他 ()

■自動車を運転する頻度を教えてください（該当する1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■国道5号創成川通の利用頻度を教えてください（該当する1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④あまり利用しない ⑤利用したことがない

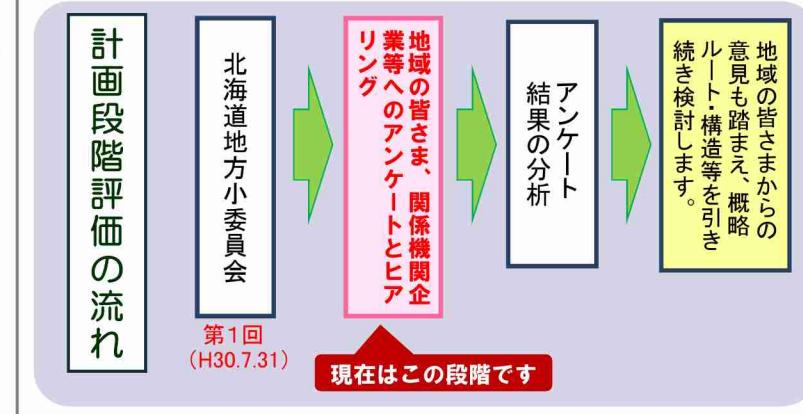
■創成川通の主な利用目的を教えてください（該当する全てに○）

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事(営業・運送等)
⑤観光・レジャー ⑥その他 ()

- アンケートは「計画段階評価」審議の参考意見となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、計画段階評価の取組を導入しています。

これは、道路の整備方針を地域の声（地域の皆様、道路利用者、関係団体等）を聞きながら、第三者委員会によって審議するものです。



アンケートについてのお問い合わせ先

<調査主体>

北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課

一般国道5号 創成川通

道路計画に関するアンケート係



国土交通省

〒060-8506 札幌市中央区北2条西19丁目

電話011-611-0216



安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。

本調査は、道央都市圏の道路計画について地域にお住まいの皆様や道路利用者のご意見を広くお聞きすること目的とするものです。

そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。

回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。（法令により開示を求められた場合を除きます）

第5回 札幌都心アクセス道路検討会

札幌市資料

平成27年度

基本的考え方の検討

- ・創成川通の課題整理
- ・期待される効果の検討 等

平成28年度

札幌都心アクセス道路検討会
(H28.12~)

第1回検討会

第2回検討会

第3回検討会

第4回検討会

第5回検討会

平成29年度

各種計画に創成川通を位置付け

- ◆札幌市総合交通計画(H24.1)
- ◆札幌市まちづくり戦略ビジョン(H25.10)
- ◆札幌市強靭化計画(H28.1)
- ◆第2次都心まちづくり計画(H28.5)

平成30年度

市民との情報共有に係る取組

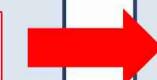
パネル展の開催・パンフレットの配布

アンケートの実施

広報活動・地域住民への情報提供
※検討の進捗に応じて適宜実施

オープンハウス・ワークショップの開催

パネル展・オープンハウスの開催



- 都心アクセス強化に係る計画段階評価の検討状況等について市民との情報共有を図るため、**パネル展**や**オープンハウス**の開催を予定。
- オープンハウスは、沿線地域や都心部で開催し、会場に職員が常駐して、来場者との対話や意見の受け付けを行う予定。

沿線地域での取組

- 創成川通沿線(中央区・北区・東区)の住民を対象に、区民センター等の複数箇所でのオープンハウス開催を検討。



▲北区民センターでのオープンハウス開催状況
(2018.1.31)

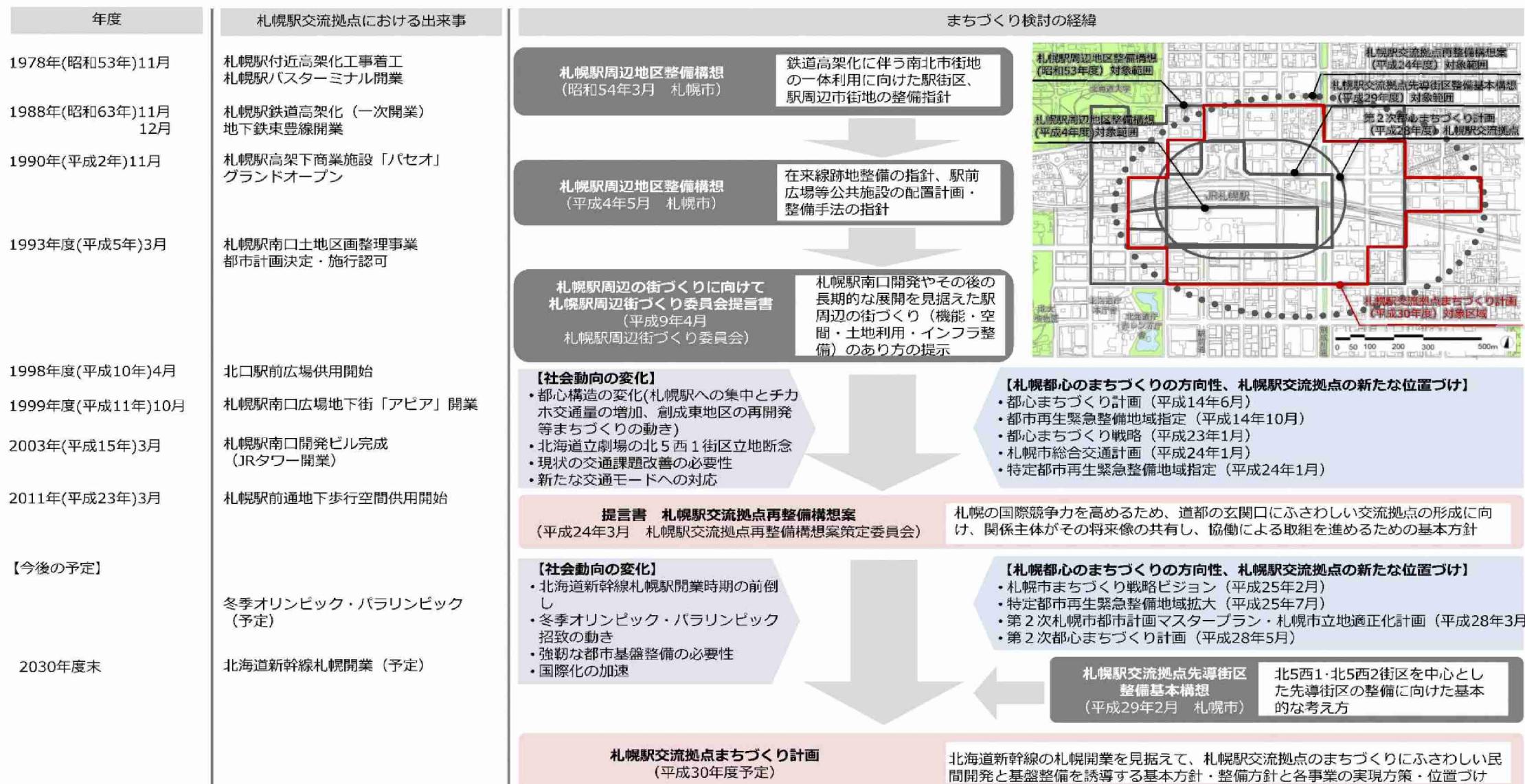
全市民を対象とした取組

- 全市を対象に札幌都心部でのオープンハウス開催や、市内各地でのパネル展開催を検討。



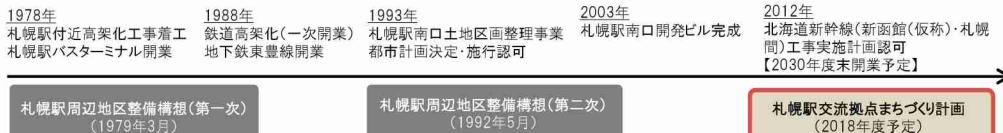
▲札幌駅地下街アピアでのオープンハウス開催状況
(2018.1.28~29)

- これまで駅周辺の基盤整備を契機に札幌駅周辺のまちづくりが行われ、社会動向の変化等を踏まえ、平成24年度に有識者を中心とした「札幌駅交流拠点再整備構想案」により、札幌の国際競争力をたかめるため札幌駅交流拠点の目指す将来像が提示された。
- 平成29年2月には、様々な上位計画の見直しや北海道新幹線札幌開業を見据え、北5西1・北5西2街区を中心とした先導街区の整備に向けた基本的な考え方を「札幌駅交流拠点先導街区整備基本構想」としてとりまとめた。
- 「札幌駅交流拠点まちづくり計画」を策定するため、H29年2月より「札幌駅交流拠点まちづくり協議会」を開催



I 基本方針等

1. まちづくりの経緯



2. 背景と目的

■ 背景

- 第2次都心まちづくり計画(平成28年)において、北海道・札幌の国際競争力をけん引する広域交流の先導的な拠点として札幌駅交流拠点を位置づけ
- 海外からの観光客増加、冬季オリンピック・パラリンピック招致
- 北海道新幹線札幌開業(2030年度予定)を見据え、再開発の動きが活発化する一方、低未利用の街区も存在

■ 目的

- 札幌駅交流拠点のまちづくりの再構築へ向けた目標・取組の方向を明確にする
- 市民・企業・行政等がまちづくりの目標・取組の方向を共有することで、今後のまちづくりを協働して推進する

II 取組の方向

1. 街並み形成

1) 道都の玄関口にふさわしい風格とぎわいのある顔づくりを進める

- 新幹線駅施設と周辺開発の連携によるまちづくり
- パブリックライフケースを実現する南口駅前広場の再整備
- 地下と地上を結ぶ結節空間の充実
- 南口駅前広場と創成川地区との結びつきを高めるオープンスペースの形成
- 駅とまちが一体的に感じられる景観の形成

2) 歩行者中心の回遊性の高い空間を形成する

- 都心のにぎわいと活力を象徴する骨格軸・展開軸の空間形成
(駅前通、創成川通、東四丁目線)
- 回遊性を高める歩行者空間・辻広場の形成
- 界隈性が感じられる多様な通り抜け空間の形成

3) 北海道・札幌の気候特性に対応した空間を形成する

- 1年を通じて快適な屋内公共空間の形成
- 質の高い地下歩行者ネットワークの形成

3. 基本方針



2. 基盤整備

1) 新幹線駅施設とまちをつなぐ交通基盤整備等を進める

- 新幹線駅につながる歩行者動線の確保
- 創成川地区との連携の検討

2) 各方面と札幌駅とのアクセス性を向上させる

- 都心アクセス強化(創成川通の機能強化)との連携

3) 利便性の高い交通結節機能の充実を図る

- バスターミナルの再整備
- 新幹線需要を見据えた観光・団体バス乗降場の確保
- タクシー・一般車乗降場の配置

4) 人とにぎわいの形成に配慮した交通環境を実現する

- 誰にでもわかりやすく、バリアフリーに配慮した歩行者動線の整備
- 駐車場・駐輪場の適切な確保

- ④バスターミナルの再整備
- 北5西1・北5西2街区の再開発と一緒に利便性の高いバスターミナル施設の再整備を行う
 - バスターミナルは北5西2街区を基本とし、必要に応じて北5西1街区にも確保
 - 札幌市と各都市の交通結節機能を強化するため都市間バスを集約するとともに、路線バスについて可能な限り集約
 - バス利用環境の向上のため、快適な待合空間を確保
 - バスターミナルの整備に合わせて、西2丁目線の自動車交通の円滑性確保について検討
- ⑤新幹線需要を見据えた観光・団体バス乗降場の確保
- 観光・団体バスについて、新たな乗降場整備の必要性や既存の北口乗降場の効率的な運用方法を検討し、新幹線開業に伴う需要増加に対応する乗降場を確保
- ⑥タクシー・一般車乗降場の配置
- 新幹線利用者に対応したタクシー乗降場や、一般車の車寄せ等を確保
 - 南口駅前広場において、タクシー乗降場の再配置について検討するとともに、滞留空間の確保を図る

3. 機能集積

1) 街区ごとの特性を踏まえた都市機能の集積を図る

- エリア特性に合った機能の配置

2) 新たな交流・活力を生み出す都市機能の集積を図る

- にぎわい・交流機能の強化
- 宿泊機能の多様性の向上
- ビジネス環境の充実
- 観光・産業振興に資する機能の強化
- 起業支援機能の創出

3) 多様なワークスタイル・ライフスタイルに対応した都市機能の集積を図る

- 居住機能の適正な立地(複合市街地形成ゾーン)
- 仕事や暮らしを支える機能の確保

4. 環境配慮・防災

1) 低炭素で持続性の高いまちづくりを実現する

- 省エネルギーへの誘導
- スマートなエネルギーの面的利用の拡大の検討
- 快適な屋外・屋内環境の形成
- モデル都市としての情報発信

2) 強靭で安全な都市環境を形成する

- 業務継続性の向上
- 安全な都市環境の形成

